

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1（小・中）

学校名	武雄市立武雄中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>学力向上について、教師は話し合い活動を取り入れた授業の改善を行っており、生徒も対話的な授業が行われていると感じている。しかし、毎日1時間以上の家庭学習が定着しておらず、課題の出し方を工夫していく必要がある。また、キャリア教育を充実させ、進路意識と学習意欲の向上を図るとともに、適切にICTを活用した授業づくりや主体的・対話的・深い学びについて研修を深め、実践等を通して指導力を高めていく必要がある。</p> <p>心の教育においては、あいさつの励行、居場所づくり、出番づくり等を通して、支持的風土づくりを意識した学級経営を行っていた。また、教師がいじめや悩みについて迅速に対応している感じる生徒が増えていた。今後も、教師間で共通理解を図り、組織的に早期対応する体制を作っていく。また、SNS等の対策のため、計画的に講演会や学級指導に取り組んでいく。</p> <p>家庭・地域との連携・協働については、今後も、地域に支えられていると感じる生徒が増えていくように、学校運営協議会や武中のちからの委員からの意見を踏まえながら、地域人材の活用、生徒の地域貢献など現在行っている取組を整理しながら、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく。</p> <p>教職員の働き方改革については、時間外勤務の時間は減りつつあるが目標に達していない。今後も継続して、職員の具体的な勤務状況を示しながら、時間管理、業務管理、健康管理を適切に行っていく。</p> <p>食については、給食を感謝して残さず食べることや毎日朝食を食べることは目標に達していた。今後も、食の大切さを伝えとともに、保護者の協力を得ながら食育を推進していく。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成
----------	-----------------------

3 本年度の重点目標	① キャリア教育の一層の充実を図り、学が意義を理解させる。 ② 出番と役割を与え、承認する「開発的生徒指導」を実践する。 ③ 教職員が健康的に日々の業務に従事できる環境整備に努め、質の高い教育を実践する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成した教師79.4%であり、今後も継続した取組を行っていく。	A	・マイプランの成果指標を達成した教師は83.8%であり、共通実践の取組が推進できた。	A	・高い達成率で先生方の生徒に対する学力向上への意欲と努力が感じられる。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践と家庭学習の定着	○「学級の友達との話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒80%以上 ○家庭学習に1時間以上取り組んでいる生徒70%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。 ・課題の与え方を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。	B	・「話し合う活動」の効果も踏まえた、分かりやすい授業の実践については、教師の意識・保護者の実感ともに良好な結果となった。 ・「1h以上の家庭学習」については全学年生徒が指標に届いていない。	B	・「話し合う活動」については、全学年とも肯定的な回答が90%前後で、良好な結果である。 ・「1h以上家庭学習」について、受験生である3年生は指標を達成した。1,2年生は授業終了までの課題の出し方など工夫研究する必要がある。	B	・授業で「話し合う活動」が積極的に導入されており、生徒のためには「自己表現」、「プレゼンテーション」等が必要であり、今後も継続してもらいたい。 ・「1h以上家庭学習」は、別の角度からトライしてみてください。
	○ICT機器を活用した授業の充実	○教師の授業でのICT機器活用率80%以上	・ICT機器の活用に関する職員研修を年3回実施する。 ・ICT機器を活用した授業を公開する。	B	・教師は指標を達成した。生徒は前年度より低下していた。今後、スタディサプリを使った取組を実施し、成果を出していく。	B	・教師の授業でのICT機器活用率70.3%で目標に達していない。教師により活用に偏りがあるためICT端末機器の研修を実施し活用推進する。	B	・効果的な活用を継続的な目標とされてもよいのではないかと。機器を使わない授業の必要もあるので「効果的な」を入れた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育や人権・同和教育の計画に基づいて授業や教育活動を行った教師70%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・人権集会や平和集会及び人権同和教育の授業を実施する。	A	・すべての担任が生徒の道徳性の涵養に向けて計画的に授業を行った。 ・授業力向上のために、校内研修を11月に実施する。	A	・計画に基づいて授業や教育活動を行った教師70%以上の目標は達成したが、中間評価と比べて数値が下がった。今後も計画的に研修を実施し、教師の授業力向上を目指す。	A	・道徳心の基礎や育ちは本来家庭が担うものであり、逆に学校の一律な学習より、ごく身近な学校生活や社会生活の中から実際に体験したケースを使って実施できればよいのではないかと。
	●いじめの早期発見・早期対応体制の充実	○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒80%以上	・月1回いじめアンケートを実施する。 ・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。 ・臨場指導を行う。	A	・いじめへの迅速な対応については、生徒・保護者共に89.8%で、目標を上回っている。 ・引き続き、全職員で未然防止、早期発見、早期対応に、組織的に対応していく。	A	・いじめ認知件数は、26件。(12月末) ・いじめへの迅速な対応については、生徒92.2%、保護者86.3%で目標を上回っている。 ・今後も研修を実施し組織的な対応を行う。	A	・「いじめ」はなかなか発見しにくい。いじめの迅速な対応は大変な難い。これからこのいじめ問題は重要課題ですので徹底して行ってください。
	○支持的風土づくりの醸成	○「学級に自分の居場所がある」と回答した生徒85%以上 ○「自分の役割や出番がある」と回答した生徒80%以上	・構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなど実態に応じて計画的に行い、よりよい人間関係づくりを行う。 ・学級・学年・生徒会活動等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、承認する場を作り出す。	A	・両項目とも目標数値を上回っている。教師の計画的なエンカウンターなどの実践や生徒への細かな支援、指導の数値が高い数値を示しており、今後の継続が重要である。	A	・両項目とも数値目標を上回っている。学年で教材の共有が行われ、効果的にエンカウンターやSSTが行われた。行事が縮小される中で承認の場や役割を生み出していく必要がある。	A	・これまでの取組によって教師や生徒の中で確立してきたのではないかと考える。自分の居場所がある生徒85%以上は良いのですが、後の15%弱が気になった。
	○教育相談体制の充実	○不登校の生徒4%以下	・教育相談部会を定期開催し、気になる生徒に対する早期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。 ・保健室来室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。	B	・不登校生徒2.2%(7月末) ・生徒との教育相談を定期及び随時に行った。 ・教育相談部会の定期開催による情報共有及び対応策の検討を行った。	A	・不登校生徒3.4%(12月末)・未然防止対策として早期発見、早期対応を強化し、指標を達成することができた。ネットやゲームなどで生活リズムが乱れるため、改善を図る働きかけが必要。	A	・先生方の対応の努力が見えるようです。ただ、ネットへの配慮はこれからも戦いとなるでしょう。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ○朝食をとって登校する生徒90%以上	・食に関する授業を行う。 ・食育だよりを発行する ・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。	A	・両項目とも数値目標を上回っている。 ・引き続き、食の大切さを指導していくとともに、個別指導を行う。	A	・両項目とも数値目標を上回っている。ほとんどの生徒は、健康であるためには毎日の朝食、食事をとることが大切であることを理解している。	A	・生徒は90%に達しているが、朝食の内容も把握して見るといい。あまり掘り下げると家庭状況に踏み込みすぎるので少し考えてのこととなります。
	○健康の維持・増進	○「睡眠時間を6時間以上とっている」と回答した生徒85%以上	・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を6時間以上とることを目安として健康増進を図る。 ・保健だよりを発行する。 ・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。	B	・睡眠時間を6時間以上とっている生徒が89.6%であった。 ・継続して睡眠の大切さについて指導していくとともに、個別指導を行う。	B	・睡眠時間を6時間以上とっている生徒が89.0%であった。 ・生徒への継続指導とともに、生活習慣改善に向けて、家庭への協力や啓発活動を行う。	B	・スマホやゲームの使用が睡眠のさまたげになるので、家庭と連携を続けてほしい。現在だけでなく将来の自分の身に睡眠が大きく関与するという事実を生徒たちに学んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・定時退勤日や学校閉庁日を設定する。 ・管理職は業務記録票やヒアリング等をもとに指導し、職場全体の業務改善を推進する。	C	・週1回定時退勤実施率75.6%、時間外在校等時間月45h未満職員28.9%であり、定時退勤徹底のために効率的に仕事をしていく。	C	・週1回定時退勤実施率73.8%、時間外在校等時間月45h未満職員35.4%であり、今後も業務改善を行い、効率的な仕事の工夫を行う。	C	・一人一人が時間の概念を今までと違ったらえ方をしていく事が大切。昔より意識も高くなってきているように思う。今後の改善を期待します。
	○適正な部活動の運営	○「休養日を適切に設定し、活動と休養のバランスを図った部活動運営を行った」と回答した教師85%以上	・部活動運営計画に則り、休養日を設定する。 ・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施	A	・部活動運営計画に則った、適正な部活動運営91.7%で目標を上回っている。 ・引き続き、適正な部活動運営を行っていく。	A	・部活動運営計画に則った適正な部活動運営94.6%で中間評価を上回り、当初目標も上回った。今後も適正な部活動運営を行っていく。	A	・コロナ禍で時間短縮の運営による評価となっているのではないかと。感染症が収まった後の運営が現状維持できるかどうか今後の課題となる。

2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○高い志と誇りを持つ教育の推進	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒80%以上	・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を計画的に行う。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒70.9%で目標より低い。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の計画的な取組44.4%のため、取組を推進する。	B	・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒77.0%で目標を下回った。 ・職員のキャリアパスポートを活用した計画的な取組54.3%のため、更なる推進が必要である。	B	・この項目と家庭学習ができていない項目と傾向が似ているような気がした。コロナの影響もあり日本経済は低成長で推移されると思う。希望職種を決め、努力していくためにもキャリア教育の充実を望む。
	○郷土愛を育む教育活動	○「地域に誇りや愛着を持っている」と回答した生徒80%以上	・地区行事を把握し、部活動において地区行事優先で積極的に参加させる。 ・郷土学習資料や人材等を活用した授業や教育活動に取り組む。	C	・地区行事への参加率が低い。(生徒57.7%、保護者39.8%) ・下期に職業講話、インタビューを実施予定	B	・「地域に誇りや愛着を持っている」と回答した生徒は80.2%で目標をやや上回った。 ・地区行事中止のため参加率が低いと考える。	B	・コロナ禍の中、なかなか参加できない一年だったと思う。今年度はコロナ対策で地区行事の自粛が相次いだため十分な実績は評価不能と考える。
○危機の未然防止	○安全な生活環境の確保	○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒80%以上。	・避難訓練・安全点検を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に対する意識を高める。 ・防災教育を実施する。	B	・大雨についての防災教育を実施できた。 ・今後は、火災訓練や不審者対応訓練を実施していく。	A	・「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒93.1%となり、目標の80%以上を達成することができた。今後、自転車運転マナーの向上を目指す。	A	・9割以上の生徒が安全な場所として学校を認知している高い評価ができる。また残り7%については何が問題なのかをアンケートにて実績報告が欲しい。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催し、情報共有を図る。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し、計画的な支援を行う。	B	・発達障害、支援制度についての研修を実施し理解を深めることができた。 ・支援計画、指導計画の見直しを行う。	B	・支援計画、指導計画の作成、研修会の実施はできた。定期的にケース会議や支援会議を開くことができず、情報共有が不十分だった。	B	・発達障害について職員の学びが重要で不足感はない。市は多くの支援機関を擁立し情報共有と支援の策定と分担制度の確立を要求する声も多い。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>学力向上について、教師は話し合い活動を取り入れた授業の改善を行っている。ICTを活用した授業づくりについては、研修を深め、実践等を通して指導力を高める必要がある。また、家庭学習の定着に向けて、課題の出し方を工夫する必要がある。</p> <p>心の教育について、いじめや不登校への対応は、今後も、未然防止、早期発見、早期対応に組織的に行っていく。SNS等への対策は、計画的に講演会や学級指導に取り組む。また、居場所づくり、出番づくり等を通して、支持的風土のある学級経営を行う。</p> <p>業務改善、教職員の働き方改革について、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守するため、時間管理、業務管理、健康管理を適切に行うとともに、業務改善を行い、効率的な仕事の工夫を行う。</p>
--------------------	---